

対サモア独立国 国別援助方針

平成 24 年 4 月

1. 援助の意義

サモアは他の太平洋島嶼国同様、国内市場が小さく（狭隘性）、国際市場から地理的に遠い（遠隔性）など、開発上の困難を抱えている。

サモアは、各国からの援助（主に豪、ニュージーランド）を受けつつ、農林水産業、観光業等を中心に成長してきたが、2008年の世界的経済危機に起因する海外からの送金の減少、製造業の不振等により経済が悪化した。2009年にサモア沖で発生した大地震、津波により、大きな被害がもたらされ、災害からの復興が今後の課題とされている。また、サモアは持続的な環境保護を政策に掲げているが、木材伐採等による森林の減少、生物多様性の低下に繋がる固有種の個体数減少、廃棄物問題等が深刻化していることから、環境保全と両立した社会・経済開発が必要とされている。

同国は独立から一貫して親日的であり、これまで国際場裏における我が国の立場や国際機関の選挙での我が国の立候補を支持するなど、良好な二国間関係を築いているが、近年、新興ドナーの影響力拡大による我が国の存在感の相対的な低下が指摘されている。同国の自立的・持続的な発展の後押しと二国間関係の強化のため、継続的な支援が重要である。

2. 援助の基本方針（大目標）：環境に配慮した持続的経済成長の達成と国民の生活水準の向上

我が国は、サモアの国家開発計画、1997年から3年に1度開催している「太平洋・島サミット」における我が国の支援方針等を踏まえ、環境保全や気候変動に対する支援をはじめとして、基礎的な社会サービスの向上やインフラ整備を含む持続的な経済成長基盤の強化に対しても支援を行う。

3. 重点分野（中目標）

（1）環境・気候変動

自然・生活環境の悪化に対応するため、廃棄物管理や生態系保全への支援に重点を置く。また、サイクロン等の自然災害のリスクを軽減するため、防災・気候変動対策についても支援を行う。

(2) 脆弱性の克服

保健医療水準の向上のため、フィラリアを2020年までに撲滅するための支援をはじめとする感染症予防強化を含む保健医療サービスへの支援に重点を置く。教育分野に関しては、ボランティア等を通じて、教員の水準の向上等、全体の基礎学力の底上げに資する支援を行う。また、持続的な経済成長を達成するため、経済活動及び社会生活の基盤となる海運、電力供給施設等の経済インフラの整備及び適切な維持管理を支援するとともに、施設の維持管理や、サモアの自立的・持続的な発展にとって重要な製造業や農林水産業等の産業を担う人材育成についても支援を行う。

4. 留意事項

(1) 我が国は、主要ドナーであるオーストラリア、ニュージーランドを始めとした他の援助国と積極的な意見交換を行い、援助の重複を回避するとともに、相乗効果を生むような、効果的かつ効率的な援助の実施に努める。

(2) 今後、2013年に策定される予定の新たな国家開発計画(2013-2018)の内容を踏まえ、本方針についても必要に応じ改定を行う。

(了)

別紙： 事業展開計画